

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29回全国総会
平和を実現する人々は幸いである一マタイによる福音書5章9節
日本YWCAビジョン2015
(1) 非核・非暴力による平和を構築する
(2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA 1・2

JAN/FEB. 2007

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074
東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円 (送料込)
www.ywca.or.jp



東北アジアの平和とYWCAの役割

新会長メッセージ

軽やかに しなやかに
そして粘り強く



石井摩耶子

実は、全国総会直前に「なぜこんな大変な時期の会長に立候補してしまったのか」と私の心は沈んでいました。しかし全国総会に出席して、その思いは吹き飛びました。釧路から沖縄まで26の地域YWCAの方々の、地域に根ざした多様で元気な活動報告を聞き、このように素敵な人たちと一緒に働けたらどんなにうれしいだろうかと思いました。「東北アジアの平和の実現のために」のシンポジウムで若い人たちの発言を聞き、ビジョン2015の「非核・非暴力による平和を構築する」と「若い女性のリーダーシップを養成する」ことは、まさに表裏一体のことだと実感しました。中国YWCAのジン・ウェイさんの力強いメッセージと具体的な提案にも励まされました。東北アジアの平和への市民レベルの連帯の歩みはすでに始まっているのです。

会長となった今、皆さんの熱い思いを大切に受けとめて、憲法改憲へと一気に進みそうな暗い時代であっても、軽やかに、しなやかに、そして粘り強く、運動を続けていきたいと切に願います。

2~3面 第29回全国総会報告

両国の歴史を振り返ってみますと、実に長い間長き隣人同士でありました。南北朝時代の「衣帯水」という言葉がそれをよく表現しています。しかし1930~40年代は日本軍による侵略という中国にとつての暗い苛酷な時代がありました。また、近年は両国の関係が冷え、特に最近中国において反日感情が高まっているのも事実です。こうした歴史のなかであつて、日本のYWCAは、自国の軍隊による中国侵略戦争を阻止できなかったことへの深い反省と謝罪を表明してこられました。戦後は一貫して平

私たちが先達にとつて常にそうであつたように、苦難のなかでも神への信仰と平和への希求が私たちを支え導いてくれるにちがひありません。(講演要約・編集委員会)

中国YWCA総幹事代行

ジン ウェイ 金 蔚



21世紀は東北アジアが世界の牽引車となるだろうと言われ、平和への長期的な展望が求められるなかで、まさにその地域の一員である中国と日本の間にも密接な関係が作られてつづきます。例を挙げれば、両国の実に26都市が姉妹都市であり、空の交通では週に500余の定期便が行き交っています。しかし一方では多くの問題が存在しているのも現実です。お互いの国の安全保障の問題、資源や市場競争の激化もあるでしょう。私たちYWCAも、真の平和を築く道は決してまっすぐではなく、多くの努力と忍耐を要する歩みであることを認識しつつ、そのなかでビジョンを共有し、平和への新しいプラットフォーム作りを神からの召命として力を合わせたいと願うのです。

① 歴史の事実を学ぶ旅「南京からひろしまへ」
② 互いの文化理解へ向けて「中日文化週間」
③ 平和を求める共通の祈り「中日YWCA平和デー」
④ 両国地域YWCAの定期的共同活動として「地域YWCAパートナーシップ・プログラム」
⑤ 平和構築のための情報交換と共有、プログラム作成から実施・評価までを両国のリーダーが協働する。

日本YWCA第29回全国総会にお招き頂き、心から感謝申し上げます。中国YWCAからは、この招待そのものが姉妹としての証であり、今後の協働を約束するものとの感謝と尊敬をこめたメッセージを皆様にお伝えいたします。さて、私にとって今回は、京都で開かれた世界宗教者会議、熊本での中・日・韓YMCAビフォーラムに続く今年3度目の来日となります。いずれも平和構築を課題とし、互いに出会い、学び合い、現状への感度を高めつつ共同のビジョンを築く貴重な機会となりました。

現在著しい経済発展を遂げつつある中国を、国際社会では期待と同時に脅威の念を持って見守っています。東北アジアのそして世界の「一員」として、どんな役割を果たしているのかが問われています。中国YWCAもまたその歩みが問われています。最重要課題のひとつとして若者への平和教育を考える時、日本YWCAが永年継続してこられた「ひろしまを考える旅」は私どもにとつてひとつの手本です。昨年中国の若者が参加させていただき、多くの学びと経験を携えて帰国しました。今回、日本YWCA総会出席の機会をいただき私どもは今後へ向けて次のような両国共同の取り組みを提案したいと思ひます。

世論を盛り上げよう

黒木順子

11月16日、教育基本法改定案が衆議院で強行採決され、審議の場は参議院へ移された。運動課題推進委員会の呼びかけで、全国総会会場の11月24日午前中、国会へ教育基本法改定案反対のロビイングを行い、お母さんに抱っこされた70歳児から70歳代の各地域YWCAの13名が参加した。主に参議院教育基本法特別委員会の委員に、「戦争をすることに躊躇しない国民を作り出すこととする。教育基本法案」を廃案にするよう要望した。YWCAでは、この1年の間に既に2回、国会議員に対し、憲法改定案・国民投票案・教育基本法改定案No.1の要請行動を行ってきた。

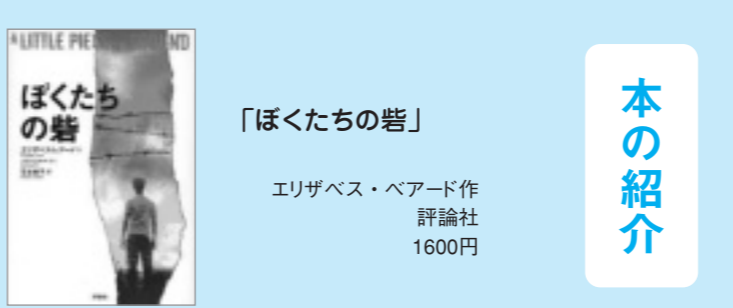
国会の情勢は、教育基本法改定案・憲法改定案の道を進んでいる。その先に見えるのは、戦争をすすめる国・格差社会・不自由な市民生活である。引き戻せるのは、今しかない。YWCAの仲間が力をあわせ世論を盛り上げよう。私たちの力が社会を変えることを信じて行動しよう。(京都YWCA)



平和を求める人のための キャサリン・サリバンさん ワークショップ

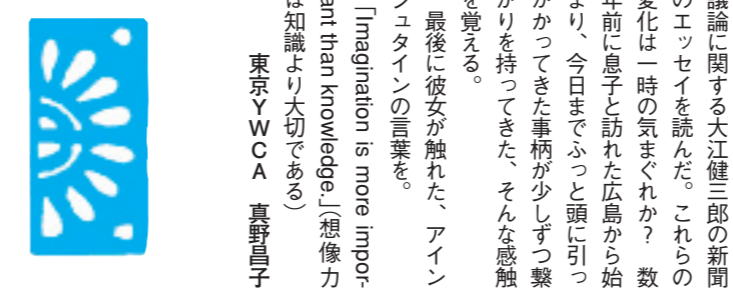
東京 YWCA

11月4日、東京YWCAでキャサリン・サリバンさんによる「平和を求める人のためのエンパワメントワークショップ」が行われた。時間にして5時間。参加者約30名。
「またまた彼女の活動風景を紹介するテレビ番組を見てぜひ参加したいと申し込んだ私は、当日期待と不安でいっぱいだった。そんな気持ちを書きほぐすかのようワークショップはスタート。相手の名前を呼びながらボールを投げるジャグリングから始まり、世界を取り巻く核の現状から今まさに世の中は転換期を迎えている、と話を進め。会場に、皆への問いかけ。「核兵器から連想する言葉は?」「もし核兵器をなくす力を持つことが出来たら私は...で始まる自分の考えを話してください。また、小さい鉄球1個を、第2次世界大戦で用いられた兵器の威力総体に見立て、今地球上に存在する核兵器の威力として3200もの鉄球を落とし続けた彼女。それは思いのほか長く感じられ、私は音を立てて鳥肌が立つと同時に、もしかするとこの音に慣れしてしまう人間がいるのではないかとこの恐ろしさを感じた。
昼休み後もさまざまな活動が続く。30年後、核廃絶を成し遂げた私たちが仮想し、核廃絶のためにしてきた事柄を振り返りの新聞つくり。「聞く人」の大きな輪の中で、自分の意見を言い合うブレインストーミング。そして、目を閉じて聞くキャサリンさんの語りかけ。最後に、話すそれぞれの今の思い。
広島で被爆した人、肉親が被爆したことをきっかけに核問題に関わり始めた人、1人で地道に平和活動を続ける人、参加した一人ひとりの背景はさまざまだが、話ほども重く、私の心に響いた。
ワークショップ後、私の中で何か変化したか? 翌日、新聞のコスタリカの平和大学の記事が目にとまった。湯川秀樹のドキュメンタリー番組を録画して見た。国会での野党側の核保有をめぐる議論が耳に残った。核議論に関する大江健三郎の新聞のエッセイを読んだ。これらの変化は一時の気まぐれか? 数年前に息子と訪れた広島から始まり、今日までふつと頭に引っかかってきた事柄が少しづつ繋がりを持ってきた、そんな感触を覚える。
最後に彼女が触れた、アインシュタインの言葉。
「Imagination is more important than knowledge」想像力は知識より大切である。
東京YWCA 真野昌子



本の紹介

「ぼくたちの砦」
エリザベス・ベアード作
評論社
1600円
僕はカリウム。イスラエルの攻撃によって瓦礫の山だった広場を、友達のホッパー(パレスチナ難民)とジョーニ(キリスト教徒)と一緒にサッカー場を作りかえているんだ。そのグラウンドが今一番の宝物。突然の外出禁止令やイスラエル兵が道路封鎖をして父さんを含め老人までさらし者にしたり、戦車が僕たちのグラウンドに入ってきた。絶対この居場所を作り上げるんだ。
日常を受け入れ、そして決して未来をあきらめない少年の目で見たパレスチナの日常が書かれています。(木村真理子)



ジュネーブ便り 世界YWCAインターン記⑤ -YWCAの「C」-



今回は、ジュネーブでのYWCA/YMCA合同祈禱礼拝の様子をお伝えしたいと思います。この合同礼拝は、11月13日、世界YWCAのすぐそばにあるエキュメニカルセンターの礼拝堂で行われ、YWCA・YMCAのスタッフ及び両者の関係者等、合計40名の参加者がありました。礼拝は、世界YWCAの

スタッフが中心となり、英語・フランス語・スペイン語で進められました。私はどうと、即席歌隊のメンバーの一人として賛美歌を歌いました。また礼拝中、今年のテーマである「Changing Lives, Changing Communities」にちなみ、YWCAのHIV&AIDSコーディネーターであるソフィーがスピーチをしました。ソフィーは、HIV&AIDSに対する無知、そこからくる偏見がHIVの感染拡大の最大の要因であり、一人ひとりの気づきが変革を導く鍵だと強調しました。私は、この春YWCAにやってきたソフィーから、HIVと共に生きるということを感じ、また女性や子どもエンパワメントが、HIV&AIDSという問題に取り組むには必要不可欠であることを学びました。今年の合同祈禱禮は、ソフィーの言葉を受け、この問題について何をどのように伝えたいのか、考える機会となりました。(世界YWCAインターン 福岡由里子)

ぼくたちが、本当に教えてほしいこと
学校が荒れている いじめで自殺する子がいる こどもの犯罪が増えている それらは、みんな教育基本法のせいだと大人は言います 本当にそうでしょうか?
ぼくたちは、教育基本法のせいでごんごんに息苦しい学校生活を送っているのですか?
ぼくたちには、この基本法のどこがぼくたちを苦しめているのか、わかりません
むしろ、この基本法を正しく守ることのできたくない大人にぼくたちは失望します
この基本法を守る国の代表を選ぶことのできない大人に失望します
ぼくたちは、大人を見ています こどもは大人の真似をして大きくなるからですが、嘘をついてはいけないといいながら、嘘をつく大人 いじめはいけないといいながら、ものすごい武器で、戦争を仕掛ける大人 一人ひとりが大事といいながら、無理やり多数決にしたがうことを強要する大人
ぼくたちが、なりたくないという大人のお手本はもうたくさんです

「心のノート」で道徳の授業をこれ以上つまらなくしないでください
日の丸・君が代はサッカーの試合だけもうたくさんです 先生の心をぼくたちに返してください
ぼくたちの学校に、大人の自分勝手な都合を押しつけられるのはもうたくさんです
ぼくたちは大人の、おもちゃでも道具でもありません

ぼくたちが、本当に教えてほしいこと
ぼくたちに、未来が希望にあふれるものだと、教えてください
ぼくたちの心はいつも自由でだれからも縛られるものではないと教えてください
ぼくたちは、大人の暖かい愛情にいつも守られているのだと教えてください
ぼくたちは、人を殺すために生まれてきたわけではありません
いじめられるために生まれてきたわけではありません
ぼくたちの生きる権利・学ぶ権利・幸せになる権利を守るために
すべてのこどもたちの未来のために、教育基本法を守り続けてください
ぼくたちが、早く大人になりたいと憧れるような大人でいてください (東京YWCA 藤谷佐斗子)
*06年12月6日国会前での教育基本法反対ヒューマンチェーンでのリレートークより

- 「ご協力ありがとうございました」
賛助費(以下敬称略)
関宮子 水上伸子 福田和子 齋藤康代 熊村巨子 伊藤富美子 小倉杏子 堀江雅子 桐山隆志 松島登志 帆足嘉代子 大槻響香 吉村恵理子 渡辺聡子 中山洋洋 遠藤洋子 東山ヨシ子 三宅泰子 三宅あやめ 高橋キヨ子 茂木孝子 三宅あやめ 松村ユカリ 加藤暎子 斎藤多賀子 早田紀子 汐崎摩子 和氣まこと 江崎淑子 白井小枝 高橋敦子 松山恭子 木岡小枝子 尾崎裕美子 大野春子 竹村香子 黒木あい 村上啓子 荒川明子 荒川知子 末長キヨ子 山路雅子 関口静子 安村純子 古藤善子 栗田道代 堀江孝子 斎藤善子 黒沼ヒロキ 金剛静恵 江崎啓子 武井多佳子 松田和子 大城美代子 常葉俊子 高橋栄子 藤井初子 藤野尚子 一般寄付
鶴崎祥子 唐崎旬代 Saki Kozaki Miyazaki 富良野ワークショップ オリブの木 木梨金
酒井純子 日比野啓子 上遠野浩樹 丹野義美 西原愛・来・輝 武井多佳子 遠藤真理 松波郁江 新田和子 庄野香子 藤田和子 女子学院宗教部
パレスチナYWCA支援募金
日本キリスト改革派東京福音教会 寺嶋公子
世界YWCA総会会費募金
寺嶋公子 松山YWCA
世界YWCA総会トラベルファンド
全国総会日曜礼拝会

インフォメーション

▼冬のバザールのお知らせ
2月15日(木)17時~20時
2月16日(金)10時半~13時半
(於:日本YWCA会館)
商品:有名ブランド婦人服 真珠アクセサリー パレスチナグッズ・手作りキーキ・お菓子・雑貨など
*売上はYWCAの活動費とパレスチナ難民支援にあてられます。ぜひお来場下さい。
(※バザールお休みの日)
ティア募集中。※新品・未使用品の献品大歓迎。お問い合わせは、日本YWCA事務局まで

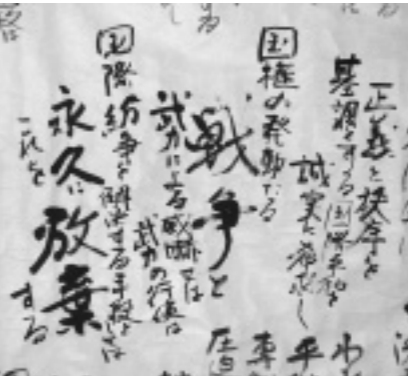
第29回全国総会報告

非核・非暴力による平和を構築するために

日時:2006年11月24日(金)~26日(日)
会場:国立オリンピック記念青少年総合センター



憲法9条条文 (古川ひろしさん筆)
(憲法ワークショップより)



第29回全国総会は、11月24日(金)から26日(日)にかけて、国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に開かれた。代議員146名に客員、傍聴・スタッフを合わせ250名近くが出席した。中国YWCAからは総幹事代行のジン・ウェイさんが来日され、すべてのプログラムに参加された。

1 前中の議事1は、川戸れい子副会長による開会礼拝の後、青木恵子会長の基調報告で始まった。アジアの近隣諸国との関係が政府レベルで悪化し、中東の状況も深刻化するなか、改憲や教育基本法改定の動きに抗するためには、アジアの国・地域をはじめとする世界のYWCAとのネットワーク、また若い女性のYWCA運動への関わりを強めていかなければならないという内容であった。続いて今年総会期3年間の活動・会計の報告等を承認した。

2 2日目は、秋の寒空のもと、メイテーションで気持ちを入れ直した後、ジン・ウェイさんより「東北アジアの平和とYWCAの役割」と題するメッセージをいただいた。ジン・ウェイさんは、中日の過去の歴史にも触れたうえで、中国と日本人々との相互理解の促進が平和をつくることと話され、若い世代を対象とした平和教育プログラムを共同で実施したいという具体的な提案もされた。11日記者参照。

3 3日目は、新中央委員の選挙結果が紹介された後、次総会期に関する重要議題の審議が行われた。日本YWCAのビジョンについての議案のうち、前日に議案整理委員に提出された修正提案についてはまず審議が行われた。主な修正点は、「日本YWCAビジョン2015」に加えて総会期目標を掲げるというもので

日本YWCAビジョン

日本YWCAの使命 (ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29総会期主題
平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

日本YWCAビジョン2015

- (1)非核・非暴力による平和を構築する
 - ・平和憲法をまもり、世界に広める
 - ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
 - ・女性と子どもの権利をまもる
 - ・パレスチナYWCAの活動を支援する
- (2)若い女性のリーダーシップを養成する

シンポジウム「東北アジアの平和の表現のために」では、韓国や中国のYと協働してプログラムを進める福岡Yや東京Y、「ひろしまを考える旅」、日韓青年交流プログラム、東北アジアピースメークミーティングの参加者が次総会期に向けての展望が話された。国境を超えたYWCAのネットワークを生かし市民同士が多様な交流をすることが大切。若い人がプログラムに参加するだけでなく平和の担い手として運動・運営にも携わることができ、といった話が出た。協議1では、地域Yとして「日本YWCAビジョン2015」に具体的なビジョンのように取り組めるかを5人程度のグループに分かれて話し合った。そこでは、改憲の流れに抗し平和憲法の大切さを身近な人に話す、台湾・北朝鮮のことも視野に入れながら日中韓のYとネットワークを構築したい、などの意見が出された。

協議2では、公益法人制度改革に際し、財団法人日本キリスト教青年青年会が直面している課題と今後の対応について理事会の担当部会から説明があった。夕食後は、ビジョン実現に向けた次の行動を見出すため、①憲法 ②東北アジアの平和 ③公益法人制度改革 ④日本のYWCAのビジョン ⑤憲法改定を推進するYの役割 ⑥憲法改正の推進 ⑦憲法改正の推進 ⑧憲法改正の推進 ⑨憲法改正の推進 ⑩憲法改正の推進

若い女性のリーダーシップに関する案については、意思決定機関に30歳以下の女性を25%以上入れる、などの項目を付け加える修正案が出されたが、原案のまま可決された。

その後、主題・使命は問題なく可決。「日本YWCAビジョン2015」のうち、非核・非暴力に関する案について、「核」否定に関する項目を付け加えてはどうかという修正案が出された。しかし、東北アジアで信頼関係を築くために「核」廃絶・脱原発は大前提であり、原案には「核」否定の意味が含まれているということで原案が可決された。

若い女性のリーダーシップに関する案については、意思決定機関に30歳以下の女性を25%以上入れる、などの項目を付け加える修正案が出されたが、原案のまま可決された。

予算案・活動計画案いずれも賛成多数で可決された。

地域Yにより設立された別団体の全国総会参加に関する細則改正についての審議は、昨年の臨時全国総会において承認された会則改正をうけて行われた。原案に「準加盟の」という文言を付け加えるという修正意見が採択された。

最後に協議から出された事項として、財団法人日本キリスト教青年青年会が公益財団法人認定を目指すという方針を承、またそのために必要な審判行為変更に関しては理事會及び中央委員会に付託すること、などが賛成多数で承認され、石井摩耶子新会長による閉会礼拝をもって全国総会は終わった。

26日の日曜礼拝は、人材育成の専門家として長くアフリカで仕事をされてきた武藤小枝さんから示唆に富んだメッセージを聞いた。3面参照。礼拝献金16万1171円は世界総会出席が財政的に困難な国のYWCAからの参加者の交通費支援として捧げられる。

第29総会期書記役員 倉戸ミカ

第29総会期会長・副会長・中央委員

会長	石井摩耶子 (東京)
副会長	侯野 尚子 (東京) 実生 律子 (東京)
総会選出中央委員	荒木 紀子 (福岡) 池上三喜子 (東京) 勝 美恵 (大阪) *竹内 友紀 (横浜) 俵 恭子 (熊本) 寺嶋 公子 (東京) *西 文子 (東京) *福岡由里子 (京都) 藤原 玲子 (静岡) 松浦 裕子 (神戸) 万年 禮 (神戸) 横山由美子 (新潟) (*印: 青年)



交流会は「スパンバナバナ」のビートのきいた
ドラマ&ダンスでスタート



交流会のテーマは、来年ケニアで開催される世界総会にちなんで、アフリカ。世界総会参加予定者もアフリカの衣装を着て登場



「憲法9条を世界に広める」を身体で表現
(「人間彫刻」ワークショップにて)



総会初日の午前中、「教育基本法を変えないで!」と全国から駆けつけた13名が国会にロビイング

第29総会期第1回中央委員会

第29回全国総会に引き続き26日午後から新中央委員会が開かれました。議事に沿って、財団法人日本キリスト教青年青年会理事・監事が選出され、理事に唐崎旬代・鹿野幸枝・鈴木怜子・辻加代・中村紀子・石井摩耶子・川端国世(以上会長・総幹事は職席上)、監事に江尻美穂子・若菜允子が承認されました。

役員に関しては、書記役員に荒木紀子、会計役員に寺嶋公子が選出されました。

次に、前回中央委員会議事録

引き続き、第29総会期の活動のあり方と組織案が検討されました。まず、公益法人新法への対応もあり、理事会と常任委員会が互いに連携していくことを確認しました。第28総会期の常任委員会の申し送り事項を参考に、第29総会期の重点ポイントとして、①公益法人新法への対応 ②財政と将来展望 ③ミッションとビジョンの展開が上げられました。特に、ミッションとビジョンの展開については意見交換が行なわれました。その結果をふまえ、常任委員会では今後さらに具体策を協議することになりました。

第29総会期書記役員 荒木紀子

世界YWCA総会派遣募金チャリティ・イベント In ケニア大使館

全国総会前日11月23日(木)夜、募金小委員会主催チャリティイベントを開催。来年度の世界総会参加予定者をはじめ56名が参加しました。

ケニアにおけるHIV/AIDSの問題をパイオレット・アウオーリー・ケニア共和国大使夫人の入れ方の実演、大使館シェフ自らによるケニア料理の紹介など、ケニアに親しむよい機会となりました。収益10万6000円を世界YWCA派遣募金とさせていただきます。

教育基本法改悪反対のキャッチコピーを作りました

「(ご)どもに「戦争のしかた」を教えないで。
おばあちゃんには日丸が血と骨に見えちゃったって。
戦争する人(つ)くりが、また始まる。」
(ワークショップ「憲法改悪反対」)

種

ほんとうの力となる言葉
「しかし、わたしの言葉は聞いてるあなたがたに言っておく。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしない。」
(ルカによる福音書6章27節)

日本国憲法9条は、このイエス様の「敵を愛しなさい」とのみ言葉で別々の表現で語られているように思われます。さらに作家の井上ひさしさんが、9条を「ことごとく」も「けれども」も私たちが「人間としての勇気をふるいおこして、この国がつくつかさどるその立場を捨てることとした」/「どんなに苦しい状況でも、筋道をたどってよく考えて、こぼれぬ力をくせは」/「かならずしずまると信じるからである」/「よく考えぬかれたことこそ、ほんとうの力なのだ」/「そのために、私たちは戦をする力を、持たないことこそ、ほんとうの力」/「うその力なだ」という立場も「みとめないこととした」/「言葉がすべて、ほんとうの力」となると思いませんか。ほんとうの力となる言葉を、わたしは、聖書のみ言葉より、また神の言が肉体を持って私たちに現れてくださったイエス様「自身より学びたい」と思っています。今一つ、井上ひさしさんの言葉を紹介します。「原爆が投下されたときから、私たちが日本人は、世界の歴史の中で特別な使命を背負ったのだと思います。将来、核戦争などの不幸が起こらないためには、日本国憲法の考え方を大切にしたい。そしてそのことを人類に示す使命を負ったのです。」

刀林龍葉号子 (広島女学院中等学校聖書科教師・YWCA部顧問)
*出典:井上ひさしの子どもの心につなげる日本国憲法(講談社)

来年の世界YWCA総会がケニアの首都ナイロビで開催されるとお聞きしました。今日は、そのケニアを含めアフリカの数カ国での経験から私が気づかされたことをお話ししようと思います。皆さんはアフリカと聞くと、どんなイメージを抱くでしょうか? 何よりもまず砂漠。そして暑さ。しかしここでは緑濃い森や豊かな川、そしてナイロビのように平均気温が20度以下、雨季には暖房さえ必要ない所もあります。

私自身、自分の思い込みや既成概念が見事に裏切られるという多くの体験をし、それが今日のお話のタイトルともなっています。ケニアの紅茶の飲み方は、白いお茶とはミルクティー。黒いお茶は日本人の感覚でいうとストレートティーですが、「砂糖がたっぷり入った紅茶」の場合が多く、私は、何度かこれに失敗しました。それは、目の前の事実をありのままに見ることの重要性を教えてくださいました。

2002年から昨年まで、私はケニアでアフリカの人々が自らの力で人材育成を行い、貧困削減に貢献するためのセンター設立に携わりました。各国からの専門家が集う大規模な事業現場では、アドバイザーの私と協働するアフリカ女性の部長との間に小さい誤解が重なり、互いの溝が深まっていきました。そんなある日、彼女が毎朝仕事の前に祈っていることを知りました。この気難し、自信満々に見える彼女も、実は新しい事業の責任者として大きなプレッシャーを抱えている。一寸先が見えない不安に耐えている彼女に必要なのは、専門家としての助言ではなく、不安を共に分かち合うパートナーなのだと思いつかされたのです。私との間には同じ祈りをいっしょに仲間意識さえ生まれませんでした。相手の考え、望み、悩みはその相手を見つめることからしか見えては行かない。まさに、「今日の聖句」打ち合わせもしないのに、二人の者が共に行くだろうか? の通りです。そしてこの向き合う相手と共に目的地を見極めれば、あと

白いお茶ですか それとも黒いお茶ですか?

「打ち合わせもしないのに、二人の者が共に行くだろうか?」(アモス書3章3節)

武藤小枝里 (元JICA専門家)

一緒に連れ立って前進すればいいのだと分かったのです。交渉し、周囲を説得しつつ進めていく事業のなかで、私たちはチームを組んで気持ちよく仕事を進めることができました。

農業生産の実に7割が女性によって担われていると言われるアフリカでは、女性への教育支援や機会提供は単に彼女たちの権の尊重にとどまらず、より積極的なアフリカの社会・経済開発の鍵と理解されています。しかし現実には、そうした機会はまだ限られており、低教育・早婚・多産・重労働といった現実を背負っている女性たちが、彼女たちはそのことに押しつぶされていなければいけません。絶えずその状況を打破しようと、ある意味、男性よりも果敢に闘っているように思えます。

難民キャンプでのボランティアから始まったこれまでのアフリカとの関わりから、私はずっと否定し続けてきた自分の「女性性」に向き合うことになりました。子どもの頃から「男女差別で扱われることのない仕事が好き」と自分なりにがんばってきたのですが、一生懸命働かずに家族を守り生きざるを得ない状況を受け入れさせてくれた。生きていることに真剣な女々々を受け入れさせてくれた。謙虚な気持ちで、彼女らの必死の挑戦が報いられるよう、何かお役に立てたらと思うようになりました。

思い込みや先入観を洗い流して、まっさらな気持ちで相手と出会う時、初めて成すべきことが示されるのではないのでしょうか? 国際協力も結局は人々のつながりです。そして、私たちが神様の前で「共にひびきまくる等しいもの」たちです。共に並んでこの世界を素晴らしいものとするために働き、そのような世界を創られた神様を賛美する者同士なのです。

(文責・編集委員会)

*全国総会における日曜礼拝メッセージより